

The Society of Japanese Grammar

日本語文法学会

第14回 大会発表予稿集

主 催

日本語文法学会
早稲田大学教育・総合科学学術院

2013.11.30 (土)・12.1 (日)

会場：早稲田大学

○2013年11月30日(土) [早稲田大学国際会議場井深大記念ホール]

12:30 -	受付(早稲田大学国際会議場1Fロビー)13:00までにご着席ください
13:00 - 13:15	挨拶・事務連絡
13:15 17:15	第14回シンポジウム 「動詞基本形を考える」 講師1: 須田義治(沖縄大学) 「現代語の形態論的なカテゴリーにおける無標形と動詞基本形」 講師2: 土岐留美江(愛知教育大学) 「動詞基本形終止文の表す意味—古代語から現代語へ—」 講師3: 仁科 明(早稲田大学) 「無色性と無標性・万葉集運動動詞の終止形・連体形終止、再考」 コメンテーター: 野田尚史(国立国語研究所) 司会: 井島正博(東京大学)
17:20 - 17:50	会員総会(早稲田大学国際会議場井深大記念ホール)
18:00 - 19:30	懇親会(早稲田大学国際会議場第一会議室)懇親会受付は第二会議室で行います

○2013年12月1日(日) 午前 [早稲田大学国際会議場]

パネルセッション		
	A会場(井深大記念ホール)	B会場(第一会議室)
10:00 12:00	テーマ 「認識的条件文の地理的変異と歴史的变化」 司会 江口正(福岡大学) 発表 有田節子(大阪樟蔭女子大学) 「現代日本語文法における認識的条件文の位置づけ」 日高水穂(関西大学) 「認識的条件文の地理的変異」 矢島正浩(愛知教育大学) 「認識的条件文の成立」	テーマ 「名詞句間の関係に着目した名詞研究の可能性」 司会 建石始(神戸女学院大学) 発表 岩男考哲(信州大学) 「引用形式が名詞をつなぐ表現の研究—「という」「といった」と「とか」をめぐって—」 眞野美穂(鳴門教育大学) 「同格名詞句の意味関係—固有名詞が含まれる場合—」 建石始(神戸女学院大学) 「指示的用法を持つ名詞修飾表現の研究—コーパスを使った「問題の」・「例の」の分析—」 坂本智香(神戸女学院大学) 「数量名詞「一つ」と名詞の意味関係—「一つのNP」・「NPの一つ」・裸名詞の用法の比較から—」
12:00 13:15	昼 食	

○2013年12月1日(日)午後[早稲田大学国際会議場]

研究 発表	A会場 (井深大記念ホール)	B会場 (第一会議室)	C会場 (第二会議室)	D会場 (第三会議室)
	司会：宮崎和人 (岡山大学)	司会：西田隆政 (甲南女子大学)	司会：堀川智也 (大阪大学)	司会：定延利之 (神戸大学)
13:15 13:55	【招待】 安達太郎(京都橘大学) ダ体の意味—現代語 と近代語の対照分析 の観点から—	【招待】 岡崎友子(東洋大学) 中古における指示詞 系接続語—「カカリ」 「サリ」を中心に—	【招待】 富樫純一(大東文化大学) 「と」系感動詞におけ る意味と用法—「おっ と」「ええと」を例 に—	
14:00 14:40	中西久実子 (京都外国語大学) 強調の「ただだ」が 不自然になる原因— 「それは千円だけだ」 はなぜ不自然なのか—	馬 紹華 (東京大学大学院生) 上代語カラニの用法 について	沈 晨 (北京外国語大学大学院生) 日本語動詞名詞化に おける動詞の語彙的 意味による制約につ いて	堤良一(岡山大学) ソンナNの感情・評 価の意味はどのよう に生じるか
14:45 15:25	森篤嗣(帝塚山大学) 文法記述はナガラ節 の自動意味判別に資 するか	深津周太(愛知淑徳大学) 中近世における〈程度 小〉を表す連体修飾 表現の諸相—「ちょっ とした」型の成立を 中心に—	新谷知佳 (大阪大学大学院生) 共起する名詞句から 自他対応を捉え直す	森本香織 (大阪大学大学院生) 「サバに塩をかけてあ げる」から読み解く 新敬語論
15:25 15:35	休 憩			
	司会：前田直子 (学習院大学)	司会：丸山直子 (東京女子大学)	司会：橋本修 (筑波大学)	司会：岡部嘉幸 (千葉大学)
15:35 16:15	桑野リデーン充代 (ストックホルム大学大 学院生) 日本語とフィンラン ド語の指示詞の対照 研究—現場指示用法 についての一考察—	野間純平 (大阪大学大学院生) ノニ節内に現れるノ ダ相当形式—西土佐 方言と飯島方言を例 に—	川瀬卓(弘前大学) 副詞「どうも」の史 的変遷	李 佳娟 (中央大学大学院生) 副詞「よく」の意味 構造に関する研究
16:20 17:00	山内美穂 (杏林大学大学院生) 談話中「単独使用」 される「トカ」「タリ」 「シ」の機能	ナッティラー・タッ プティム (Pibulsongkram Rajabhat 大学) 副詞の「ちゃんと」 に関する一考察	趙 英恩 (東京大学大学院生) 日本語の時間的な幅 を表す表現「あいだ」 「うち」について	長谷部亜子 (愛知学院大学大学院研 究員) ウエデ/ウエニの事 態把握の違いにつ いて—接続詞コノウエ デがない理由—

11月

【第1

「動

(司

導入

1.「

2.「

3.「

コメ

12月

【バ

A会

【テ

司会

1.現代

2.認識

3.認識

本セ

B会

【テ

司会

1.引

2.同格

3.指示

4.数量

【研究

A会場

(司

13:15

14:00

○2013年12月1日(日)午後[早稲田大学国際会議場]

研究 発表	A会場 (井深大記念ホール)	B会場 (第一会議室)	C会場 (第二会議室)	D会場 (第三会議室)
	司会：宮崎和人 (岡山大学)	司会：西田隆政 (甲南女子大学)	司会：堀川智也 (大阪大学)	司会：定延利之 (神戸大学)
13:15 13:55	【招待】 安達太郎(京都橘大学) ダ体の意味—現代語 と近代語の対照分析 の観点から—	【招待】 岡崎友子(東洋大学) 中古における指示詞 系接続語—「カカリ」 「サリ」を中心に—	【招待】 富樫純一(大東文化大学) 「と」系感動詞におけ る意味と用法—「おっ と」「ええと」を例 に—	
14:00 14:40	中西久実子 (京都外国語大学) 強調の「だけだ」が 不自然になる原因 —「それは千円だけ だ」はなぜ不自然な のか—	馬 紹華 (東京大学大学院生) 上代語カラニの用法 について	沈 晨 (北京外国語大学大学院生) 日本語動詞名詞化に おける動詞の語彙的 意味による制約につ いて	
14:45 15:25	森篤嗣(帝塚山大学) 文法記述はナガラ節 の自動意味判別に資 するか	深津周太(愛知淑徳大学) 中近世における「程度 小」を表す連体修飾 表現の諸相—「ちょっ とした」型の成立を 中心に—	新谷知佳 (大阪大学大学院生) 共起する名詞句から 自他対応を捉え直す	森本香織 (大阪大学大学院生) 「サバに塩をかけてあ げる」から読み解く 新敬語論
15:25 15:35	休 憩			
	司会：前田直子 (学習院大学)	司会：丸山直子 (東京女子大学)	司会：橋本修 (筑波大学)	司会：岡部嘉幸 (千葉大学)
15:35 16:15	桑野リデー・充代 (ストックホルム大学大 学院生) 日本語とフィンラン ド語の指示詞の対照 研究—現場指示用法 についての考察—	野間純平 (大阪大学大学院生) ノニ節内に現れるノ ダ相当形式—西土佐 方言と飯島方言を例 に—	川瀬卓(弘前大学) 副詞「どうも」の史 的変遷	李 佳娟 (中央大学大学院生) 副詞「よく」の意味 構造に関する研究
16:20 17:00	山内美穂 (杏林大学大学院生) 談話中「単独使用」 される「トカ」「タリ」 「シ」の機能	ナッティラー・タッ プティム (Pibulsongkram Rajabhat 大学) 副詞の「ちゃんと」 に関する考察	趙 英恩 (東京大学大学院生) 日本語の時間的な幅 を表す表現「あいだ」 「うち」について	長谷部亜子 (愛知学院大学大学院研 究員) ウエデ/ウエニの事 態把握の違いについ て—接続詞コノウエ デがない理由—

11月30日(土) 早稲田大学国際会議場井深大記念ホール

【第14回シンポジウム】13:15~17:15

「動詞基本形を考える」

(司会：井島正博)

導入「動詞基本形をめぐる問題」

井島正博

1

1.「現代語の形態論的なカテゴリーにおける無標形と動詞基本形」

須田義治

9

2.「動詞基本形終止文の表す意味—古代語から現代語へ—」

土岐留美江

19

3.「無色性と無標性—万葉集運動動詞の終止形・連体形終止、再考」

仁科 明

29

コメント「動詞基本形研究から総合的な有標・無標研究への期待」

野田尚史

37

12月1日(日) (早稲田大学国際会議場)

【パネルセッション】10:00~12:00

A会場 (井深大記念ホール)

【テーマ】認知的条件文の地理的変異と歴史的変化

41

司会

江口 正

1.現代日本語文法における認知的条件文の位置づけ

有田節子

42

2.認知的条件文の地理的変異

日高水穂

50

3.認知的条件文の成立

矢島正浩

58

本セッションの論点

江口 正

66

B会場 (第一会議室)

【テーマ】名詞句間の関係に着目した名詞研究の可能性

67

司会

建石 始

1.引用形式が名詞をつなぐ表現の研究

—「という」「といった」と「とか」をめぐって—

岩男考哲

68

2.同格名詞句の意味関係—固有名詞が含まれる場合—

眞野美穂

74

3.指示的用法を持つ名詞修飾表現の研究

—コーパスを使った「問題の」「例の」の分析—

建石 始

82

4.数量名詞「一つ」と名詞の意味関係

—「一つのNP」・「NPの一つ」・裸名詞の用法の比較から—

坂本智香

90

[研究発表]13:15~17:00

A会場 (井深大記念ホール)

(司会：宮崎和人)

13:15~【招待発表】ダ体の意味

—現代語と近代語の対照分析の観点から—

安達太郎

97

14:00~強調の「だけだ」が不自然になる原因

—「それは千円だけだ」はなぜ不自然なのか—

中西久実子

105

14:45 ～文法記述はナガラ節の自動意味判別に資するか (司会：前田直子)	森 篤嗣	113
15:35 ～日本語とフィンランド語の指示詞の対照研究 ―現場指示用法についての一考察―	桑野リデーン充代	121
16:20 ～談話中「単独使用」される「トカ」「タリ」「シ」の機能	山内美穂	129
B会場（第一会議室）		
(司会：西田隆政)		
13:15 ～【招待発表】中古における指示詞系接続語 ―「カカリ」「サリ」を中心に―	岡崎友子	137
14:00 ～上代語カラニの用法について	馬 紹華	145
14:45 ～中近世における〈程度小〉を表す連体修飾表現の諸相 ―「ちょっとした」型の成立を中心に―	深津周太	153
(司会：丸山直子)		
15:35 ～ノニ節内に現れるノダ相当形式 ―西土佐方言と甕島方言を例に―	野間純平	161
16:20 ～副詞の「ちゃんと」に関する一考察	ナッティラー・タップティム	169
C会場（第二会議室）		
(司会：堀川智也)		
13:15 ～【招待発表】「と」系感動詞における意味と用法 ―「おっと」「ええと」を例に―	富樫純一	177
14:00 ～日本語動詞名詞化における動詞の語彙的意味による制約について	沈 晨	185
14:45 ～共起する名詞句から自他対応を捉え直す (司会：橋本 修)	新谷知佳	193
15:35 ～副詞「どうも」の史的変遷	川瀬 卓	198
16:20 ～日本語の時間的な幅を表す表現「あいだ」「うち」について	趙 英恩	206
D会場（第三会議室）		
(司会：定延利之)		
14:00～ソンナNの感情・評価的意味はどのように生じるか	堤 良一	214
14:45 ～「サバに塩をかけてあげる」から読み解く新敬語論 (司会：岡部嘉幸)	森本香織	222
15:25 ～副詞「よく」の意味構造に関する研究	李 佳娟	228
16:20 ～ウエデ／ウエニの事態把握の違いについて ―接続詞コノウエデがない理由―	長谷部亜子	236

日本語

問題

動
す（
場に
見て
付け
今
組を
のと
どの
は思
有効
い。
こ
れば
―
にテ
態に
るこ
「付
意味
うこ
こ
われ
浮か
を担
状況
本形
行く
いっ